

萩ジオパーク推協だより

2018年5月30日 No. 39

〒758-8555 山口県萩市大字江向 510
TEL : 0838-21-7765 FAX : 0838-25-7767
e-mail : geo@cityhagi.lg.jp
HP : <http://www.cityhagi.lg.jp/site/hagigeo/>

発行：萩ジオパーク構想推進協議会
事務局：萩市ジオパーク推進課
Facebook: <https://www.facebook.com/HagiGeoProject>

萩のジオパーク活動に手ごたえ!

新規認定プレゼンテーション、JpGU パブリックセッションに参加して

5月19日(土)の日本ジオパークネットワーク認定申請プレゼンテーション及び5月20日(日)の日本地球惑星科学連合(JpGU)2018年大会パブリックセッションの様態を報告します。

5月18日(金)夕刻、会長である藤道萩市長、花田阿武町長、戦略顧問の脇田山口大学教授ら登壇者が現地入りし、決起集会。試作品の阿武町のジオサイトの一つ「モドロ岬」を紹介するお菓子を手に、和やかな雰囲気の中、明日のプレゼン成功を確信しました。

プレゼン当日の5月19日(土)、午前は会場である幕張メッセ国際会議場201号室と同じフロアの一室を確保し、最終確認。15分間のプレゼンで役割を持つ8人、加えて25分間の質疑応答でジオパーク活動の現場の声を答えるべく参加する4人、どんな質問が来るか、ドキドキしながら会場に向かいました。

午後からのプレゼンの様態は号外をご覧ください。無事、現地審査に進むことがわかってからの交流会では、他ジオパークの参加者と意見交換をしました。プレゼンの感想を聞いたり、それぞれの地域の活動、悩みなどを語り合いました。

5月20日(日)は、JpGUのパブリックセッション「ジオパーク」に参加しました。国際展示場のポスター発表では各地域の教育や保全、地域振興の取組の説明を受けました。午後からは「ジオパークがつなぐ地球科学と社会—10年の成果と課題—」というテーマで6つの講演がありました。日本のジオパークが今後何を目指していくのか、答えは出ませんでした。萩地域では「地球の視点で「萩らしさ」が「見える」・「伝わる」まち」を創ることを目指し、その取組をJGNで活かし「日本らしさ」をみんなで作っていきましょう。



- (上：プレゼン発表をする参加者
中：パブリックセッションポスター会場
下：「モドロ岬」をイメージしたパンを手に
スリー・ショット)

【参加者のコメント】

萩ジオの特徴、前回の課題解決の取組、市民意識の醸成、首長の姿勢等わずか15分間の持ち時間でしたが、皆さんに十分に理解していただける内容でした。交流会でも口々に「とても素晴らしかったですね」と好評をいただきました。現地審査でも、地域を更にアピールし、是非認定されるよう頑張りましょう。

(副会長：奥山さん)

色々と事前準備をして「いざ幕張」へ、約300名が待ち受ける会場へ。13時より一組目・土佐清水がスタート、続いて13時45分より萩の番となり、メンバー12名が揃って登壇。流れるような進行と、それぞれが担当するセクションを力強く、明確にプレゼンが進み、その後、質疑応答になりましたが、2年間の地道な活動、行政の取組等的確な回答ができ、自画自賛かとは思いますが、素晴らしいプレゼンになったと思います。

夕刻の交流会に参加した際に、他地域の方々と名刺交換をしました。私の名刺の肩書きに“萩ジオプランナー”と書いてあるので、多くの方より、どういう活動をしているのかと質問を受けました。私は現在15名いること、ツアーの企画、モニターツアーの実施、今後の展望(希望、夢)を語りました。一部の方から「もう少し詰めた話を聞きたいので電話をしても良いか？」など、大変有意義で忘れることのできない一日になりました。

(萩ジオプランナー：川岸さん)

今回、学生としてプレゼンテーションに参加し、2日間貴重な経験ができました。意見交換では、全国の様々な地域がジオパークの活動に向けて取り組む様子を、直接聞くことができ、感動しました。こういった活動を通して、学生間でもジオパーク活動の取組が広がっていけば良いかなと思います。(山口大学：井町さん)

幕張へ阿武町モドロ岬の水玉模様(=苦鉄質火成包含岩)をモチーフにした菓子4種を持って行きました。交流会等の話のネタにと、地元のお菓子屋(ポ・ヤシロ)さんに協力を頂きました。ブッセ、マカロン、メロンパンの3種は、水玉部分をチョコで色付け。もう1種のパイは、モドロ岬近くの大規模な関門層群のシマシマ模様を表現。試作品ながら、どれも県ブランドの町特産キウイのジャムも練り込み、味にも拘った本格的なもの。前日の決起集会では両首長も試食、好評でした。残念ながら、当日の交流会で全国からの参加者に配ったものの時間制約で感想は聞けませんでした。お土産に発展性を持つ菓子は、ジオパークが経済効果を創出するための展開として、一面に過ぎませんが、町民の皆さんからのアイデアを結集する機会をつくり、些細なアイデアが堆積岩のように積み重なり、いつか町民の町づくりの思いというマグマで変成し、ダイヤモンドとして大噴火するよう努力したいです。(萩ジオマスター：金田さん)

「萩ジオパーク構想」に関わり、2回目の申請を迎えました。今回の事前準備では、「挑戦的」という言葉が常に飛び交っていました。「萩」から「日本ジオパークネットワーク」に何を発信するのか、それを熱く語る場で、“チーム萩ジオパーク”が“チーム日本ジオパーク”としてつながりをもつことで、何かを変えていくのだ! という気持ちになるものでした。プレゼン後の交流会では、「ジオカフェで交流した人だ!」とか「あの本を書いた人だ!」とか「萩に来たことがある人だ!」という人に実際に会ってお話できました。また、質問を受けることも助言をいただくこともあり、有意義な時間を過ごしました。「大地と人のつながりを楽しもう!」…「大地」を通して、たっぷりと「人とのつながり」を楽しんだ幕張でした。(萩ジオプランナー：藤田さん)



(入念なプレゼンのリハーサル)



(交流会で会長が閉会あいさつ)

NHK・TV ブラタモリ #106 萩 放送される 5/26(土)

5月26日(土)「ブラタモリ #106 萩編」が無事放送されました。ご覧になった方も多くいらっしゃると思います。どうでしたか？

そんな、今回のブラタモリ「萩はどうして世界遺産になった」は、実は当協議会も協力させていただきました。ここでは、放送に至るまでのいろいろな裏話をご紹介します。

今年の2月頃から、番組構成をつくるために頻りに制作スタッフさんが萩に来られました。白井専門員と入念な打ち合わせやロケ候補地巡り、時には大雪の中、田床山に登ったり、「萩の城下町の基礎は安山岩がつくっている」ことを証明するために木戸孝允旧宅や高杉晋作誕生地の床下に潜ってみたりしました。ブラタモリの面白さは、入念な下調べと、何度も構成を練り直す作業のもとに成り立っていることを知りました。

実は、3月3日に開催されたジオモニターツアー「萩城下町は‘3’から始まった？」に制作スタッフが参加していました。ジオプランナーさんが考案した実験を見て、三角州の成り立ちが理解できたと喜んでいました。萩城下町が三角州と砂丘の上に成り立っているという番組内の紹介には、ジオプランナーさんの貢献もあったかもしれませんね。

撮影は4月4日に行われました。白井専門員が登場した笠山では、タモリさんが景色を見るなり萩六島を火山と見抜いたり、海岸の岩を見て安山岩だと気付いたり、案内人泣かせの展開でした。放送でも白井専門員がたじろぐ様子をご覧いただけたのではないのでしょうか。

番組の最後にタモリさんから「萩が火山の町だったとは…」というコメントがありました。当協議会としては、萩のまちを地球目線ととらえた、とても嬉しい言葉をいただきました。これからの萩ジオパーク活動の弾みになりますね。また、今回、番組制作スタッフさんから全国のジオパークの印象や他のロケでの裏話などたくさんの興味深い話も聞きました。今度は制作スタッフさんを読んで講演会などができるといいなと思っています。



(ジオモニターツアーの一場面、番組スタッフは誰?)

ジオ・カメラ散歩



阿武町のジオサイト「モドロ岬」にシーカヤックで接近! 問合せは GI Paddlers (08388-2-0027)



萩のジオパーク活動を興した永尾隆志先生を偲んで、伊良尾山山頂へ。



萩ジオ友の会、大島探訪。狭い路地、急勾配、地形に合わせた暮らしを体感しました。

地域の大人が子どもたちに～越ヶ浜小学校放課後子ども教室～ 5/12(土)

昨年8月から「日本一おもしろい火山体験ツアーをつくろう in 笠山」という名前で、毎月1回ないし2回、笠山山頂展望台を中心に、ワークショップを続けてきました。参加者の増減はありつつ、笠山とその麓に発達した越ヶ浜地区について、ジオパークとしてどう伝えたいのか、大地とのつながりがわかる相関図を作りました。また、誰を対象に何をどう伝えるのか、まずは地域の子どもたちに笠山が火山であることを伝える体験プログラムを作りました。その実演の舞台が越ヶ浜小学校放課後子ども教室でした。

当日は1年生から6年生まで17人の子どもが参加。子ども教室に関わる地域の方々、小学校の先生も見学されました。2種類の実験、現地の見学、スペシャルゲストも登場し、あっという間に2時間の教室は終了しました。参加した子どもたちは喜んでおり、ドロッと流れて台地ができること、丸い山は違うことなど、目に見える実験でよく分かったようです。

今回、プログラムを実演するに当たり、「笠山ジオの会」を結成しました。これまでの取組も含め、メンバーに伺った感想です。「子どもたちが楽しそうで、やった人も楽しそうだった。実際楽しかった。来ていなかった地元の小学生、中学生、ほかの学校の児童生徒、地元の大人、観光客など、いろいろな人に今日のプログラムを広げたい。今回は火山だったが、シリーズ化してやりたい。火山と海、植物、人の暮らしなどなど。これまでのワークショップを振り返って、この取組は地域おこしなんだ、と実感した。もっと地域が活性化するように、活動したい。」



(熱心に説明に聞き入る子どもたち)

ジオパーク・ワンポイント講座⑥ 審査員を感動させよう

日本ジオパークネットワークに加盟するための審査が、着々と進んでいます。審査は、①申請書提出(4月)→②公開プレゼンテーション(5月)→③現地審査(7・8月)→④委員会で審議・結果発表(9月)という流れで行われます。萩はこれから現地審査に向けた準備を進めていきます。審査員は、地域がどのように盛り上がっていて、人々がどんな夢を描いて活動しているのかを見に来ます。多くの方が楽しんで活動している姿、みんなで地域をより良くしようと試行錯誤している姿を見せて、審査員を感動させましょう。

6月の予定

○萩ジオパーク構想推進協議会定期総会 6月8日(金) 15:00～16:00 場所:萩・明倫学舎 内容:平成29年度事業・決算・監査報告ほか 主催:萩ジオパーク構想推進協議会 問合せ:萩市ジオパーク推進課(0838-21-7765)

●geoとも(萩ジオ友の会)定例会「むつみ地域へジオ探訪!」6月16日(土) 10:00～16:00 集合場所:むつみ総合事務所 内容:むつみ地域の大地の見どころをめぐる。(少雨決行) 参加費:100円 主催:geoとも 問合せ:萩市ジオパーク推進課(0838-21-7765) ※参加者の自動車に乗り合わせて移動。参加にあたっては自己責任でお願いします。

○笠山ジオの会定例会 6月20日(水) 13:30～16:00 会場:笠山山頂展望台 内容:子ども対象の火山・笠山を体験できるプログラムづくりほか 主催:萩ジオパーク構想推進協議会 問合せ:萩市ジオパーク推進課(0838-21-7765)

●はぎジオカフェ 6月21日(木) 18:30～20:00 会場:道の駅 阿武町(予定) 参加費:200円(飲み物代は別途)、主催:萩ジオパーク構想推進協議会 申込み:前日までに萩市ジオパーク推進課(0838-21-7765) ※全国のジオパークからお菓子をお取り寄せ。どこのジオパークかは当日までヒミツ。

※ ●の行事に参加される場合は、必ず、萩市ジオパーク推進課(0838-21-7765)までご連絡ください。